

一般社団法人

護持の里たまゆら



- 増富地域に於ける取り組み事項の紹介

- 代表理事 小山 芳久
- 山梨県北杜市須玉町比志 6 4 3 8
- 電話 0 5 5 1 - 2 0 - 6 5 0 0

目指したい小さな地域づくり



- 老若男女、みんなが元気で楽しく生活できる集落創り
- 何度も来たくなる集落創り
- 心身ともに元気になれる集落創り

美しい自然、健康的な食、健康に生きる知恵、
そしてラジウム温泉

健康づくりの里 増富



目指す姿実現のために

- 食文化の見直し、増富の保存食の発掘と発信
- 山や川、里山の保全
- 心身ともに健康になる仕組みづくり
- 後継者の育成
 - 農業、林業、加工食品生産、観光
- 住増富の魅力を発掘と発信！
- 民何度も来たくなる仕組みづくり
- の心の魅力発掘と発信



現状の説明

- 人口の64%以上が65歳以上
- 耕地の約63%が有休農地
- 集落内にあった小中学校は廃校
- 病院や診療所などの医療施設無し
- 温泉郷の顧客数は減少傾向
- 人口の少ない青年層への負担増
- 林業従事者の減少
- 知名度がなかなか向上しない



このままだと…

- 田畑はなくなり、荒れ地ばかり⇒
- 山は荒れ放題⇒
- 子供も大人もお年寄りも生きづらい環境に⇒子供たちへの負担は増え続ける

- 集落の消滅…？
- 温泉郷は存続…？

平成27年度連携事業



- 増富の魅力再発掘する連携事業
- 伝統的な料理のレシピ調査連携事業
- 山の清掃活動、登山道の整備連携事業

- 医療機関・ウェルネス分野との連携事業
 - 健康プログラムづくり
 - 健康的な食材づくり(農業、加工食品生産)
 - 健康づくりツアーの企画

地域資源発見体験

平成27年度



①地域資源調査&マップづくり

元気会など高齢者のみなさんへのインタビューなどを通じ、地域の資源を調査する。資源＝伝統的な加工食品・料理、空き家、史跡や伝統行事、景勝スポットなど



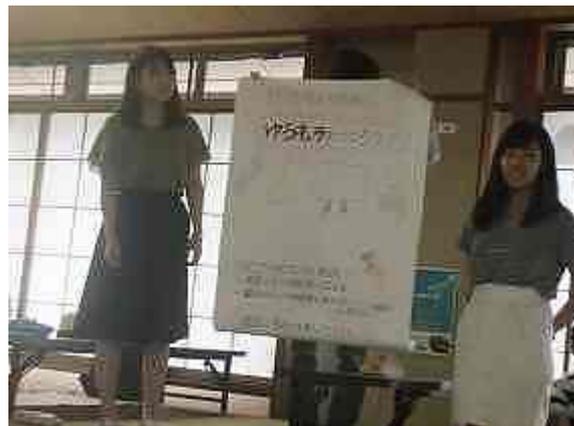
地域資源発見体験

平成27年度



②大学生による連携

学生が地域の住民へのインタビューを実施、そこで明確になった増富の地域資源の活用方法を検討、企画・立案する。



地域資源発見体験

平成27年度



③空き家再生

空き家活用こそが増富再生のカギである。
耕作放棄地となったご先祖の土地と一緒に開墾していく。



グリーンツーリズム事業 平成27年度



①地元特産物開発

増富きゅうりや花豆、椎茸などキノコ類、山菜、鹿肉・猪肉などのジビエを活かした特産品開発、販売。他の土地では買えない、地域の名物を開発する。



グリーンツーリズム事業 平成27年度



② 星空Bar・もみじ祭りウォークなど既存活動のPR強化

観光客向けのイベント、星空Barや女将食堂、もみじ祭りウォークなどを、より多くの人に知ってもらう為の情報発信ツールの作成。



グリーンツーリズム事業 平成27年度



③東洋大学の学生による湯の権現の前宮づくり・遊歩道整備

地元住民とともに、湯の権現跡地に鳥居を作る。また、増富の自然を体感できる遊歩道の整備を実施する。



グリーンツーリズム事業 平成27年度



④農業体験ツアー・イベントの実施

地元で農業に従事するみなさんに協力いただき、学生や集落外から訪れた人々に農作業を体験してもらったツアーやイベントの実施。増富きゅうりや花豆、大豆などの収穫体験、種まき体験など。



グリーンツーリズム事業 平成27年度



⑤福島の子供たちによる農林業・自然体験プログラム

2泊3日のキャンプ生活を通じ、動植物と触れ合うプログラム。
豊かな自然の面白さを肌で感じる。芋掘りなど農業体験も実施。





医療・福祉との連携事業

①統合医療研修会の実施

医療機関専門家による、統合医療に関する研修会を実施。



医療・福祉との連携事業 平成27



②山梨大学と連携、ミネラル野菜づくり

ミネラルを与えた野菜づくりを山梨大学の教授の強力のもと実施。生産した野菜の栄養分調査を実施。身体によい野菜づくりを追求する。





医療・福祉との連携事業 平成27

③温泉療養体験プログラム

<<健康増進セミナー開催概要>>

奥秩父瑞牆山増富温泉郷にて「癒しと不思議の科学」と題して国際生命情報科学シムが開催されました。自然環境を活かした「高次元気功及び恵である日本三大ラジ」を利用することで、県内外の若年層から中高年まで個人から企業及びその家族の健いたしたく、医師・保健師・物理学者による、健康増進セミナーを開催いたします。

セミナー名：健康増進セミナー

主催：自然科学健康増進会

支援者・組織：[Redacted]

- | | |
|--------|----------------------|
| 池田 史郎 | 池田レディースクリニック院長 |
| 古川 彰久 | 物理学者 東京大学卒・ハワイ国際大学博士 |
| 高橋 武生 | 国際生命情報科学会 |
| 山崎 英子 | 保健師 看護師 ケアマネジャー |
| 山崎 明美 | 管理栄養士 |
| 鈴木 八洲夫 | 生命科学総合研究所 |

医療・福祉との連携事業 平成27



③温泉療養体験プログラム

増富の森林や溪流の近くを歩き地元の自然を体験、健康によい工夫された食事、温泉を体験するプログラムの作成とモニターツアーの実施。



医療・福祉との連携事業 平成27



③温泉療養体験プログラム

増富の森林や溪流の近くを歩き地元の自然を体験、健康によい工夫された食事、温泉を体験するプログラムの作成とモニターツアーの実施。





28年度取り組み その1

- 温泉フォーラム

ラジウムラドン連携シンポジウムイン増富

目的：

1. 北杜市民向けに増富温泉を知ってもらう
2. 増富ラジウム温泉の付加価値をつける⇒中田医師との事業連携形態確立⇒シンポジウムで増富における温泉保養地としての医療連携体制の発表
3. 地域住民へのアプローチ⇒（冬季は地元型療養客を中心にシフト）

医療連携により療養型増富ラジウム温泉郷としての価値を高め、地元の療養客の増加を図る。（特に温泉郷の弱点である冬季の集客法として、市民が冬季に滞在したくなる療養保養の仕組みを作る）

28年度取り組み その2



- 医療連携

1. 地元の医師中田先生との医療連携

目的：増富温泉郷を滞在型療養・保養地に導く

仕組みと手段：中田先生のメディカルチェック
⇒食を含めた生活習慣の指導＋温泉郷における
入浴指導＋処方箋（漢方薬）の処方⇒温泉郷で
の滞在⇒最終日メディカルチェック

湯治客を中田医院への送迎サービス（有料 源泉入浴等）

28年度取り組み

その3



医療連携

2. 自然科学健康進会設立

組織形態：医師 2～4名 自然科学者 2～4名
保 健師 看護師 その他

目的：

リーゼンヒュッテでの滞在型宿泊体系の確立

増富の自然エネルギーと医療との連携による体質改善・介護予防・認知症予防の仕組みを作り上げる

対象者：

がん・リューマチ・糖尿病等の病気予防・再発予防・認知症予防・介護予防

診察に基づく指導：

エネルギー療法＋安全な食の提供＋源泉入浴＋健康講座

28年度取り組み

その4



増富の湯日帰り体験

目的：病気予防・認知症予防・介護予防

対象者：

1. 北杜市民50歳代～高齢者

健康増進課・保険課との連携による市民向けのサービス

仕組みと手段：

送迎（10名以上のグループ）認知症予防・介護予防のための体操＋ラジウム温泉＋安全な食事（2500円を想定）

28年度取り組み その5



2. 温泉療養客向け：日中の過ごし方を支援

「中田先生との医療連携による滞在型療養体験」
中田医院への送迎＋メディカルチェック＋食事＋入浴
／3000円

農業体験・自然エネルギー体験・散策などを実施（有
料）

食べ物問診チェック＋ストレスチェック／1000円

農業体験・自然エネルギー体験・散策体験 3000円

増富の湯健康講座

（健康体操・温泉入浴講座＋源泉養生2000円

28年度取り組み

その6



健康講座等の講座開設

1. 増富の湯毎日講座 認知症予防・介護
予防（会員無料）

食講座・入浴講座・操体法講座・らくらく
体操講座・ヨガ講座

毎月第3土曜日には中田先生の中国医学か
らみた健康講座

•

28年度取り組み

その7



ボランティアスタッフの組織化将来は体験事業として確立したい

地元高齢者・住民⇒講師・伝承者⇒地域通貨

学生

⇒月2回の募集⇒女将弁当・地域通貨・源泉入浴

増富のファン作り⇒月2回の募集⇒女将弁当・地域通貨・源泉入浴

28年度取り組み

その8



- 募集型体験事業
- 農場体験
- 自然エネルギー・自然体験
- 空き家整備体験

28年度取り組み

その9



学生との連携強化

- 健康科学大学 テーマ
- 永井教授 リハビリ 柔軟性 痛み・冷え
- 志茂博士 ポーツケアー
- 東洋大学
- 和光大学
- グリーンロッジキャンプ事業
- 山梨学院大学 子供キャンプ
- 山梨大学

28年度取り組み

その10



- 富の湯毎日講座

⇒北杜市住民向け

認知症予防・介護予防

⇒温泉療養客向け

昼の過ごし方

自然エネルギー体験・散策

- 食講座
- 入浴講座
- 操体法講座
- らくらく体操講座
- ヨガ講座

増富の魅力を伝えたい



増富は「失われつつある日本」のすばらしい文化や自然を凝縮された特別な場所。

ここにかろうじて残っている生活様式、生きる知恵こそが、日本人のアイデンティティーです。

美しい増富を残したい。

後世に伝えたい。そして、50年後も100年後も「生き続ける」場所にしたい。

みなさんのご協力、よろしくお願いいたします。